

令和5年度 津幡町立津幡中学校 学校評価 <中間評価>

1回答…より肯定的回答

1+2回答…肯定的回答

重点事項	内容	評価の観点 【】生徒、保護者、教職員アンケート	達成度判断基準 (1回答・1+2回答)	判定			
				1	%	1+2	%
1 学力向上	(1)授業力向上	【生】授業がわかりやすい。 【保】わが子は授業がわかりやすいといっている。 【教】授業中に、生徒を褒めたりアドバイスをしたりしている。	A 40%・85%以上 B 35%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	C D A	38 14 55	A A A	89 65 96
	(2)ICT機器等の活用 ★町共通	【教】ICT(大型TVやタブレット)を活用し、学びを深める指導を行っている。	A 50%・80%以上 B 40%・70%以上 C 30%・60%以上 D 30%・60%未満	A	52	A	90
	(3)家庭学習の充実	【生】自分で計画を立てて勉強している。	A 60%・90%以上 B 50%・80%以上 C 40%・70%以上 D 40%・70%未満	D	33	C	71
<評価>	・個別指導の充実により、生徒が授業で「わかった。できた。」を実感できるよう共通実践を行っている。今後も継続的な共通実践により、生徒の学力向上につなげたい。						
2 生徒指導の充実	(1)あいさつの定着	【生】家庭や地域で自分からあいさつしている。 【教】家庭や学校でしっかりあいさつすることを指導している。	A 80%・95%以上 B 70%・90%以上 C 60%・85%以上 D 60%・85%未満	C C	58 57	B B	92 90
	(2)無言清掃の徹底	【生】無言清掃に取り組んでいる。	A 50%・90%以上 B 40%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	C	39	B	86
	(3)人間関係づくり	【生】学校へ行くのが楽しい 【生】学級は居心地がよい 【教】生徒間や教師との人間関係が温かなものになるよう、学年・学級の充実に努めている。	A 60%・95%以上 B 50%・90%以上 C 40%・85%以上 D 40%・85%未満	C C B	49 48 52	B C A	90 89 100
	(4)いじめの根絶	【生】いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	A 90%・95%以上 B 80%・90%以上 C 70%・85%以上 D 70%・85%未満	B	81	A	95
<評価>	・挨拶については、昨年度同時期に比べるとやや数値が低下した。教師自らが範を示しながら、挨拶の大切さを粘り強く伝え、より一層の充実を図りたい。 ・いじめに関する繰り返しの指導をしているが、「いじめはいけない」と言い切る生徒の割合が8割強である。学年・学級における温かな人間関係づくりの充実に努め、100%を目指して繰り返し指導を行っていく。						
3 信頼される学校づくり	(1)たより、HPの充実	【保】学校は子どもや学校の情報提供を適切に行っている。 【保】学校からの情報(たより、HPなど)をよく見ている。	A 70%・90%以上 B 60%・80%以上 C 50%・70%以上 D 50%・70%未満	D D	38 30	B B	87 84
	(2)小中連携した英語教育 ★町共通	4技能を3年間で系統的に育成できているかの指標の一つとして、3年生時の英検3級以上の取得者数を追跡調査していく。	A 3級以上 35%以上 B 3級以上 30%以上 C 3級以上 25%以上 D 3級以上 25%未満				
<評価>	・保護者からホームページが充実をしているとのコメントをいただく機会もあるが、アンケートの数値は昨年度の同時期と比較すると、微増にとどまっている。今後も学校の教育活動について保護者、地域への情報発信に努めていく。						
4 教員の 人材育成	(1)若プロ	【教】若プロ研修の内容が充実している。(ミニOJT研修、メンターとの懇談等)	A 70%・90%以上 B 60%・80%以上 C 50%・70%以上 D 50%・70%未満	D	25	A	100
<評価>	・若手とメンターとの面談を定期的に行い、個別課題の解決に重点を置いている。研修内容の充実を図りながら、互いに学び合う職員集団を、まず若手から作っていきたい。						
5 多忙化改善に向けた取組の推進	(1)時間外勤務の縮減 ★町共通	【教】時間外勤務時間が80時間を超える教職員の割合 ※学期ごとの割合で評価	A 1学期35%以下 2学期25%以下 B 1学期40%以下 2学期30%以下 C 1学期45%以下 2学期35%以下		4月 … 26% 5月 … 23% 6月 … 42% 7月 … 10%		
<評価>	・昨年度の同時期と比べると、80時間を超える教職員の割合は減少している。超過勤務の教員が固定化が見られるので、業務の進捗状況等を注意深く見守りながら、指導・支援に努めていく。過去数年間で業務を見直しているが、業務削減には限界を感じている。年間の業務を見て、時期の集中を防ぎ、多忙感を軽減する取組を行いたい。						